12月号
第417号
創刊　昭和29年7月
題字　鶴木大寿先生

会報
富山県小学校教育研究会

発行日 令和5年12月
発行所
富山市千歳町1-5-1
（富山県教育記念館）
富山県小学校教育研究会
印刷所　中央印刷株式会社

好きなことを突き詰めて、人に喜んでもらえたら

PHOTOGRAPHER　**イナガキ　ヤスト**

先だって、自分の写真撮影のテーマである"富山の本気"が、ジャポニカ学習帳のシリーズとなりました。こんなことが起きるなんて考えてもいませんでしたが、自分の写真が掲載されたノートを、県内の子供たちや多くの方々が求めてくださり、本当に望外の喜びでした。そんな僕ですが、もともと写真家になろうと思っていたわけではありません。以前までは会社員をしており、写真はあくまでも趣味でした。そんな僕に転機が訪れたのはコロナ禍です。それまでは、ただ好きで風景写真を撮っていただけでしたが、コロナ禍で外出できない人々が、もしかしたら、自分の写真を見ることで少しでも気を晴らしてくれるのではないか。そういう気持ちでSNSに写真投稿をしていたところ、自分の想像を遥かに超える反響をもらいました。この経験が、専業写真家になるきっかけとなりました。

この話は、「人生、何が起こるかわからない」ということです。特に現代においては、コロナ禍もそうですし、また技術革新の波もあって、より先行きが不透明になっています。昨日までは当たり前だった仕事が、明日にはなくなっているかもしれない。そういう状況では、単純な学力以上に、生きる力のようなものの重要性が高まってきます。

先日、小学校の授業を見学する機会をいただいて、教育現場でもそのような意識が高まっているのでは、と感じました。というのは、見学した授業では、先生に当てられた子供が答えを返す、というような従来の授業ではなく、グループディスカッションをベースにして、子供が主体的に考え意見を出していく様子が見られたからです。その経験からか、先生が全体に意見を求めると、子供がこぞって挙手をして発表したがっていたので、とてもびっくりしました。

生きる力を育む上では、こういう主体性が非常に重要だと感じますが、さらに僕が思うのは、好きなことを突き詰める大切さです。やはり、人がいちばん主体的になり、集中力を発揮するのは、自分が好きなことをやっているときです。混迷を増す社会では、何をすべきかということに悩んで身動きがとれなくなってしまいがちです。しかし、自分が好きなことをしっかりともっていれば、混乱に振り回されなくなり、経験や成果を積み重ねられます。また、何事もやり遂げなければ人の目に入りませんが、積み重ねがあれば、人々に発見してもらえるかもしれません。そしてそれは、人に喜んでもらえたり、評価してもらえたりするものである可能性があります。何が起こるかわからない現代だからこそ、突き詰める重要性が高まります。僕自身、10年後に写真家をやっているかはわかりません。けれど、写真を通じて培ってきたことは無駄にならないし、未来の自分がやっていることにも、きっとその積み重ねが生きているだろうと確信しています。